

英 安原幸七

娛樂係 勝永常次郎 中島金吾 柴田明治 長山

梅吉 白竹定吉 山口榮松 中島 熾 中島兼

次郎

一般調査係 下岡勇次 中島定吉 原 雪人 三

田新松 岡見義勝

見よ、周到なる組織を、而して組織の主腦者として活動した者は實に東京鐵工組合理事長三木次郎君であつて、之れが參謀者は交渉委員の外東京鐵工組合の理事諸君である。

労働組合必要の好適例

日本労働總同盟友愛會東京鐵工組合は友愛會中の職業別組合の一として大正七年十一月純筋肉労働者の鐵工場に従事する者のみを以て組織したものである、入會金二圓會費五十錢、現在の日本労働組合中最高級のものとして、又其規約の模範的として、労働運動を生命とする智識階級中に尊重の勝利は、日本全體の労働者に對して如何に労働組合の必要なるかを、適切に知らしめたものである。

理想的なる職工團の行動

不當解雇對抗職工團が十七日間籠城した場所は大崎町百反坂上の圓池俱樂部である。圓池俱樂部は初め會社の所有であつたが、昨年職工等の要求に基き、圓池製作所従業員全體の所有となつた、約五十坪の建物で、此處には講堂もあり球撞場もあり、其他の娛樂器具も備へられ、現在の日本の労働俱樂部としては稍理想に近き物である。

交渉委員を絶對に信頼した一般職工は和氣霽然として此處で浪花節を語り薩摩琵琶を弾じ、義太夫を唸つて、時々蓄音機も鳴り出す。ひよいと首を差出して場内の光景を見た新聞記者は、怪訝な顔をして眼をバチクリさせた。

一般職工が斯くの如き平然たる中に夫々の任務

一〇

せられてゐる労働組合である。

而して現在にありては三木次郎君が其理事長に任じて、松岡駒吉、山口政利、泉 忠、餅田守一中村三太郎、中田 壽、田邊幸則、小林幸四郎、平澤計七、の諸君が理事である。

圓池製作所の職工は、殆ど全部鐵工組合大崎支部の會員だから、圓池争議の勝敗は、同時に東京鐵工組合の勝敗である。鐵工組合は一月十一日夜友愛會本部に臨時理事會を開き、圓池争議に就て協議した結果、先づ一應は會社側の意見も聞く必要があるので、十二日朝會社に熊崎専務及澁谷工務課長を訪ひ、面會を求めたが、會見に應じないので、不誠意なる會社の態度を憤り、東京鐵工組合は全力を擧げて圓池製作所の争議に關し、職工側に援助する事を直ちに決議し、其後決議通り全力を擧げて職工團に援助した結果遂に勝利の月桂冠を其頭上に載かしめた、職工團の勝利は乃ち東京鐵工組合の勝利である。節制と訓練のある組合

を定められた人々は、組織的に忠實に其責任を果した。警備員は寒い冬の道を力足踏みしめながら會社の周圍を警戒した。炊事係は此二百六十名の大家族を養ふ可く眞黒になつて働いた。傳令は何事かの命を受けて絶えず飛び廻つた。會計は其面倒な責任のある仕事を一錢も間違はずにより多く經濟を計らんとて、帰宅後も眠る時間を割いて執務した。調査係は出勤簿を見ては欠席者が何が故の欠席かと云ふ事を誠實に調査して歩いた。而して交渉委員は時々委員室に委員會を開いて運動方針を協議した。

總ての人々が講堂に相會する事があつた。それは交渉委員の報告と、演説會を開いた時とである痛烈な職工諸君の演説は絶えず續いたが、他よりも應援者が來つて職工諸君を激励した。鐵工組合の各理事、鈴木友愛會會長、北澤早大教授、友愛會關西出張所から遙々來た久留理事や、加藤理事等の壯烈な演説もあつた。松岡駒吉君及び毎日新

十一